橋本英吉著作目録

編　集：和田 崇
第１版：2026年3月31日

*本目録はJSPS科研費 JP22K00338の助成を受けたものです。

参考文献

・浦西和彦「橋本英吉著作目録」（『関西大学文学論集』26巻3号、1977年3月）
・黒木庸人「単行本一覧」「著作目録」（黒木庸人 編著『剛直の軌跡　―橋本英吉と田川―』アピュアランス工房、1998年）

凡例

・[E]＝アンケート
・†＝未確認
・図書（その他の媒体）に掲載の場合は、掲載誌名を[図書]等とし、備考欄に書名等を記す。
・収録本№.＝「橋本英吉著書目録」の通し番号に対応

作品名	発行年	月	日	掲載誌名	巻	号	掲載頁	収録本№., 備考
1926年（大正15年・昭和元年）								
炭脈の昼	1926	11	1	文芸時代	3	11	41-51	②　のち「炭坑」と改題。　＊小説
1927年（昭和2年）								
嫁支度	1927	7	1	文芸戦線	4	7	147-154	②　＊小説
人目を惹く観劇衣裳について―M夫人苦心の告白―	1927	8	1	手帖	一	6	27-27	＊エッセイ
何よりも新しさを〈われら如何に進むべきか―新人十七氏―〉	1927	9	1	文芸公論	1	9	2-15	
飢餓の記	1927	9	1	文芸公論	1	9	79-88	＊小説
部分的戦場〈既成文壇の崩壊期に処す〉[E]	1927	11	1	文芸公論	1	11	2-40	
1928年（昭和3年）								
棺と赤旗	1928	1	1	前衛	1	1	132-143	①②⑳㉖　＊小説
失業者救済事業　―小品	1928	2	1	前衛	1	2	142-144	③　＊小説
揚水ポンプ	1928	2	1	創作月刊	1	1	32-46	①②　＊小説
花柳はるみの「強さ」〈閨秀芸術家素描〉	1928	3	1	創作月刊	1	2	104-106	

逃走	1928	4	1	前衛	1	4	120-127	②　＊小説
旗〈創作九篇〉	1928	5	1	創作月刊	1	4	30-38	③
昇天	1928	6	7	イスクラ	1	1	16-19	＊小説
絶食同盟〈創作六篇〉	1928	6	10	創作時代	2	6	2-6	
発端	1928	8	1	文芸春秋	6	8	18-31	①㉖　＊小説
少年工の希ひ	1928	9	1	戦旗	1	5	29-36	㉖　＊小説
共同井戸〈創作七篇〉	1928	10	1	創作月刊	1	9	47-52	③
1929年（昭和4年）								
鶴嘴・煙突・トロッコ〈文壇新人録　十四家〉	1929	1	1	文章倶楽部	14	1	149-149	＊エッセイ　「略歴」が附されている。
共同印刷のストライキ〈生きた新聞〉	1929	1	1	戦旗	2	1	196-198	＊エッセイ　「編輯後記」に「労働大衆の闘争、生活のドキュメントとして「生きた新聞」の充実した姿を得た。」とある。
夜明けのスケツチ〈創作十二篇〉	1929	1	1	創作月刊	2	1	74-77	③
昭和四年度文士録〈略歴、好きな自作、面会日、現住所〉[E]	1929	1	1	創作月刊	2	1	14-14	
推奨する新人[E]	1929	1	1	創作月刊	2	1	113-113	
一九二九年度に於ける芸術小説と大衆文芸との関係並に発展方向に対する予見[E]†	1929	1	1	近代感情	2	1		＊聚英閣発行
一九一八年の記録	1929	5	1	新潮	26	5	35-63	①②　＊小説
留置場の女	1929	7	7	週刊朝日	16	1	32-	③　＊小説
蹴合ひ〈コント五篇〉	1929	9	1	婦人サロン	1	1		文芸春秋社発行
眼〈短篇二十五人集〉	1929	10	1	文学時代	1	6	142-145	①⑳㉖
天眼通・横光利一氏〈スナップ―(19)―〉	1929	10	17	東京日日新聞 大阪毎日新聞	朝刊 朝刊	19095 16679	5-5 11-11	＊エッセイ
金融資本の一断面	1929	11	1	戦旗	2	11	24-32	①⑳㉖　＊小説
創作回想〈一九二九年度に発表したわが作品に就いて〉[E]	1929	12	1	詩神	5	12	265-265	
来年は何をするか――九三〇年に対する私の希望・抱負・計画―[E]	1929	12	1	文学時代	1	8	44-49	
1930年（昭和5年）								

女四十結婚狂	1930	2	1	婦人サロン	2	2		＊エッセイ　文芸春秋社発行
むすめの春	1930	2	1	世界の動き	ー	2	107-114	＊特選短篇小説
労働市場	1930	3	1	文芸春秋	8	3	1-11	③　＊小説
市街戦	1930	3	1	戦旗	3	4	10-48	①　朝野方夫(画)　「編輯ノート」：「創作は橋本、江馬、徳永、鹿地ですが、橋本のは百十枚の力作、ドイツ××党とブルジョアジーとの闘争、その階級戦の中間に介在する社会民主々義者の行動敗戦国の労働者農民に対する資勝国のブルジョアジーの経済的支配等の事実が生き生きと具体的に描きだされてゐます。」　＊小説
古風な悲劇	1930	3	1	若草	6	3		③　＊小説　宝文館発行
鮮かな『ミス・ニッポン』	1930	3	13	読売新聞	朝刊	19054	4-4	＊エッセイ　のち「鮮やかな人物描写」と改題して、群司次郎正著『ミスター・ニツポン』（アルス、同年10月）に再録。
鮮やかな人物描写――ミス・ニツポンの読者感想――[＊再録]	1930	4	15	[図書]	ー	ー	9-11	群司次郎正『日本嬢[ミス・につぽん]』増刷版（世界の動き社）＊1930年1月10日初版
メキシコ共和国の滅亡	1930	5	1	中央公論	45	5	69-91	③　＊小説　通巻508号
五月風景	1930	5	1	文芸春秋	8	5	34-35	＊エッセイ
†	1930	5		世紀文学	2			世紀文学社（大阪）
一工場一万円也	1930	6	1	文学風景	1	2		＊小説　天人社発行
坑夫と山窩（福岡）〈郷土のある小説〉	1930	6	10	サンデー毎日	9	27	22-	＊小説
牢獄にゐる愛人	1930	7	5	文芸春秋	8	8	122-126	朝野方夫(画)　＊小説　臨時増刊(オール読物号)
石炭を送るな！	1930	7	1	少年戦旗	2	7	1-1	
炭坑挿話	1930	7	1	犯罪科学	1	2	118-121	武侠社発行　＊エッセイ
犯人捏造	1930	7	5	プロレタリア文学	ー	2	2-7	＊小説
別れる妻へ	1930	7	29	東京朝日新聞	朝刊	15890	5-5	③　＊小説
喜劇の終幕〈労働者のゐる風景〉	1930	8	1	新潮	27	8	72-75	＊エッセイ
感想二つ	1930	8	1	文芸春秋	8	9	24-27	＊エッセイ
三津海岸〈避暑地温泉コント〉	1930	8	1	婦人サロン	2	8		

ガス！	1930	8	1	戦旗	3	13	168-184	㉖　＊小説　「附記　今月号に執筆する筈の小林、立野が拘留されたので僕が至急に書いた。書き初めたら長くなつてしまつた。来月号に続きを書きたいと思ふ。（一九三〇・七）」　1930年8月号改訂版有り
奉公人	1930	9	21	週刊朝日	18	13	24-25	朝野方夫(絵)　＊小説
十月作品批評一転向期にあるプロ文学	1930	11	7	ナップ	1	3	94-100	＊エッセイ　表紙は11月10日発行と記載。　今野賢三「工場管理」、鶴田・菅野共同制作「町工場」、岩藤雪夫「邪霊」、木村良夫「嵐に抗して」、堀田昇一「奴隷市場」「機械」、鹿地亘「革命裁判」
尖端人は語る	1930	11	17	[図書]	ー	ー		『新文芸日記 昭和六年版』（新潮社） ＊エッセイ
共同制作と組織的生産〈文壇是々非々〉	1930	12	1	文芸春秋	8	14	118-119	＊エッセイ
文学的経歴聴取書	1930	12	1	文学風景	1	8		＊エッセイ　天人社発行
驚くべき娘ッ子の魅力〈何が私を驚かしたか？―驚異と恐怖との交錯瞬間―〉	1930	12	1	文学時代	2	12	64-65	＊エッセイ
建築	1930	12	20	詩・現実	ー	3	110-113	＊小説
1931年（昭和6年）								
職場を守れ！	1931	1	1	中央公論	46	1	87-103	＊小説　日本プロレタリア作家同盟書記局の「組織的生産による作品の発表に際して送る文」、窪川いね子の「強制帰国」、徳永直の「豊年飢饉」とともに「失業反対」と題して発表された。
女性よ強くなれ〈課題小説集〉	1931	1	1	サンデー毎日	10	1	24-	＊エッセイ
松葉杖の娘〈職場別掌篇集・九篇〉	1931	1	1	若草	1	1		宝文館発行
アヂ太プロ吉失業闘争記	1931	1	1	戦旗	4	1	32-50	連載の㈠　＊小説　窪川鶴次郎・西澤隆二・田邊耕一郎・貴司山治との合作。
職場と街頭	1931	1	1	戦旗	4	1	66-76	＊小説
六万円拐帯事件	1931	1	1	婦人サロン	3	1		窪川いね子・土師清二と共著　文芸春秋社発行
作品の「構成」に就て〈一日一題〉	1931	2	1	読売新聞	朝刊	19376	4-4	＊エッセイ

没落者	1931	3	1	文芸春秋	9	3	282-291	＊小説
二月の諸成果（月評）	1931	3	17	ナップ	2	3	113-117	貴司山治「バス車掌七百人」、黒島伝治「国境」、武田麟太郎「組織」、本庄陸男「支部ニュース第一号」、江馬修「きよ子の経験」、江口渙「地主の誕生日」、西田伊策「帝国主義」、藤沢桓夫「燃える石」、徳永直「輜重隊よ前へ！」、平林英子「発端」、前田河広一郎「ドバス」
選炭婦の群	1931	4	1	月刊批判	2	4	65-74	＊小説　末尾に「（或る中篇の一篇）」とある。
救援挿話	1931	4	1	文学時代	3	4	244-249	＊小説
三月の成果（月評）	1931	4	14	ナップ	2	4	204-209	荷風散人「紫陽花」、室生犀星「自殺」、阿部知二「アフリカのドイル」、堀田昇一「労働官僚」、村山知義「処女地」、豊島与志雄「如是我観」藍川陽「生活の感情」
失業市場〈都会を診察する〉	1931	5	1	文学時代	3	5	78-79	＊エッセイ
ゴルキー評伝	1931	5	1	[図書]	—	—	313-328	秋田雨雀・江口渙監修『綜合プロレタリア藝術講座第1巻』（内外社）
四月の成果（月評）	1931	5	8	ナップ	2	5	82-87	生江健次「過程」、神田錦三「未組織工場へ」、手塚英孝「虱」、宗十三郎「一応の平穏」、長谷川進「海風」、戸川静子「その一歩」、徳永直「阿蘇山」
社会フアシスト〈壁小説〉	1931	5	1	戦旗	4	5	52-53	
社会ファシスト〈壁小説二篇〉	1931	5	21	戦旗	4	6	21-21	前号発禁につき再版　もう１篇は中野重治「根」
プロレタリア文学と形式	1931	6	10	[図書]	—	—	59-74	秋田雨雀・江口渙監修『綜合プロレタリア藝術講座第2巻』（内外社）
姉妹の上に	1931	7	1	文学時代	3	7	262-273	＊小説　大衆小説明治時代号
作家・批評家・画家・ヂャーナリスト交友録[E]	1931	8	1	作品	2	8	80-81	
組合葬	1931	11	1	文学新聞	—	2	1-1	＊小説
狂人の心理	1931	12	1	文芸春秋	9	12	278-286	⑩　＊小説
女工さんスケツチ〈歳末女性風景〉	1931	12	1	婦人サロン	3	12		文芸春秋社発行

プロレタリア文学と形式	1931	12	11	[　図　書　]	ー	ー	31-36	『プロレタリア小説戯曲作法』（内外社）再録
３１年の清算[E]	1931	12	16	時　事　新　報	ー			
1932年（昭和7年）								
地底の英雄	1932	1	1	改　　造	14	1	92-111	＊小説
わかもの	1932	2	1	プロレタリア文学	1	2	40-64	＊小説
最近の感想〈文壇のファッショ化を見る〉	1932	2	15	帝国大学新聞	ー	419	5-5	
投稿作品に就いて（文芸時評）	1932	3	1	プロレタリア文学	1	3	177-181	＊文学新聞第六号、「セリプレン」、「請負制度」、「遺族」、「解決」、「明るくなった家」、「寄生虫」
ソヴエト映画「新女性線」を見て	1932	4	1	婦　人　サ　ロ　ン	4	4		文芸春秋社発行
三月のプロレタリア作品（文芸時評ー立野信之『春』その他の評）	1932	4	1	プロレタリア文学	1	4	40-46	＊立野信之「春」、小林多喜二「転形期の人々」「テガミ」、那珂孝平「印刷局証券課では」、山内謙吾「おれたちの代表」、長沢佑「部署」、岡本参平「宿題」、三林れい子「筆売娘」、平林鉄男「出征」
創作界の不振　芸術派ー題材の特異化／プロ派ー作品の概念的傾向	1932	5	2	帝国大学新聞	ー	430	5-5	＊エッセイ
電信手	1932	7	1	文　芸　春　秋	10	7	286-296	＊小説
感謝の挨拶　六十日の留置場から出て来て	1932	7	29	文　学　新　聞	ー	19	2-2	＊エッセイ
春から春へ	1932	9	1	婦　人　サ　ロ　ン	4	9		大森文六(画)　＊短篇小説　文芸春秋社発行
なまけものゝ弁	1932	10	11	文　芸　春　秋	10	11	20-22	＊エッセイ
坑夫傷害日記	1932	11	1	改　　造	14	11	62-76	＊小説
３２年と３３年[E]	1932	12	22	時　事　新　報	ー			
1933年（昭和8年）								
涙川流域	1933	1	11	プロレタリア文学	2	1	126-133	＊小説
或る時代の国鉄挿話	1933	3	1	文　芸　春　秋	11	3	308-319	＊小説
停滞なき発展――小林多喜二論	1933	3	20	帝国大学新聞	ー	471	5-5	

六月の作品	1933	7	1	文化集団	1	2	64-69	＊金親清「製鉄起業祭」「早颪」、山本有三「女の一生」、藤沢桓夫「支持者」、林芙美子「鷲」、窪川いね子「二月二十日のあと」
転向と獄中の人々	1933	8	1	文芸春秋	11	8	26-28	＊エッセイ
拝金主義	1933	9	1	文芸春秋	11	9	386-398	＊小説
就職期・坑夫時代素描	1933	10	1	人物評論	1	8	137-141	特輯：小説・新人生旅行
プロ文学の急転向	1933	12	1	文芸春秋	11	12	184-189	＊エッセイ
林の提案に賛成する〈文学建設のために〉	1933	12	1	文化集団	1	7	45-47	特輯　林房雄「一つの提案」―前号―に対する読者、プロ文学者の所見
壁小説について	1933	3	3	[図書]	―	―	161-168	日本プロレタリア作家同盟教育部編『プロレタリア文学講座第３編』（白揚社）
1934年（昭和9年）								
村の活動（一）	1934	1	1	文化集団	2	1	20-38	⑥　＊小説
村の活動（二）	1934	2	1	文化集団	2	2	1-14	⑥　＊小説　創作欄頁番号
「誠実」といふことに就て〈作者の感想〉	1934	2	1	文芸通信	2	2	2-2	
小説家はどんな詩を読み詩をどんなに考へてゐるか[E]	1934	2	1	詩精神	1	1	41-41	
農民文学の研究	1934	2	1	[図書]	―	―	345-358	『新文藝思想講座　第五巻』（文芸春秋社）
村の活動（完）	1934	3	1	文化集団	2	3	110-124	⑥　＊小説
幕府と中濱萬次郎	1934	3	1	話	2	3	306-307	
ナルプ解散に対する諸家の感想[E]	1934	4	1	文学評論	1	2	68-68	
こちこちの現実〈生活を語る〉	1934	4	1	文学評論	1	2	94-95	
切腹戦術	1934	4	1	オール読物	4	4		
自然と人生について	1934	5	1	文学評論	1	3	18-29	⑤⑳　＊小説
技術問題について	1934	5	1	文学評論	1	3	145-145	＊川口浩「否定的リアリズムについて―プロレタリア文学の一方向―」（前号）について
獄	1934	6	1	文芸春秋	12	6	300-313	⑥　＊小説
吾が企図する長篇小説の内容と抱負[E]	1934	7	1	文芸	2	7	113-113	
富士山と玉葱	1934	7	1	文学界	1	2	142-144	＊随筆
男と女と男	1934	7	18	アサヒグラフ	23	3	28-29	＊小説

入墨―短篇小説―	1934	8	1	文芸通信	2	8	24-28	
スケッチ	1934	8	1	詩精神	1	7	47-48	＊随筆
水・水・水	1934	9	1	文化集団	2	9	6-8	＊感想, 特輯　農村と文化
一、最近注目した長篇（中篇）小説・二、最近感心した短篇小説[E]	1934	9	1	文芸通信	2	9	19-19	
水騒動記〈村の生活・町の生活（文学通信）〉	1934	9	1	文学評論	1	7	31-33	＊エッセイ
炭坑（長篇）	1934	10	1	文学評論	1	8	145-172	④　第一編　「編輯後記」に「橋本氏の「炭坑」は今後二三回に連載される長篇で、炭坑内の生活が氏の老練した筆致でいぶし銀のやうに描かれてゐる。」とある。「一」～「六」章、ナウカ社版単行本の43頁まで。
丹那盆地	1934	11	1	文芸春秋	12	11	18-20	＊エッセイ
炭坑（二）	1934	11	1	文学評論	1	9	109-130	④　第一編　「七」～「八」章、ナウカ社版単行本の74頁まで。
炭坑（三）	1934	12	1	文学評論	1	10	141-162	④　第一編　末尾に「附記　本篇で一応打切ることにしました。私の計画してゐる構想の約十分の一です。尚このつづきは、今後何らかの形で発表するつもりです。」とある。「編輯後記」に「創作欄の長篇「炭坑」は、リアリズムの本道を行くものとしてプロ文壇近来の収穫とされてゐる。」とある。 「九」～「一二」章、ナウカ社版単行本の106頁まで。
今年の傑作小説10	1934	12	10	時事新報	一			
1935年（昭和10年）								
村のスケッチ〈紅葉の後〉	1935	2	1	文芸通信	3	2	6-7	＊随筆
丹那	1935	2	4	帝国大学新聞	一	561	7-7	
ところはちぶ	1935	3	1	文芸春秋	13	3	384-395	⑤⑳　＊小説
林房雄「柘榴ある庭」〈新刊評論〉	1934	3	1	文学界	2	3	82-84	

跋行的リアリズム―文芸時評―	1935	3	1	文学評論	2	3	96-102	＊貴司山治「青服」、竹内昌平「早苗君の給料」、沙和栄一「底流」、島木健作「黎明」、安瀬利八郎「長男」、鈴木清「あらしの村」
農民の不安〈農村通信〉	1935	3	1	文学評論	2	3	178-179	＊報告
村のスケツチ（静岡）	1935	4	1	進歩	2	4	6-7	
大塩兄弟	1935	5	1	オール読物	5	5	112-129	天保騒動韮山異聞　清水三重三(画)　＊小説
牛〈六月随筆集〉	1935	6	1	文芸通信	3	6	41-42	
初めて逢つた文士と当時の思ひ出[E]	1935	7	1	文芸通信	3	7	12-12	
ハガキ便り	1935	8	1	文学評論	2	9	91-91	
「黎明期」を読みて〈相互批評〉	1935	8	1	文学評論	2	9	97-101	＊徳永直「黎明期」
村の写生	1935	8	1	文学案内	1	2	10-11	＊小品
文学を志す人々へ！[E]	1935	8	1	文学案内	1	2	13-13	＊覚書ほか
二つの事柄についての感想	1935	9	1	文学評論	2	10	133-137	＊希望をあたえる作品、ほか
読んだものから	1935	10	1	文学評論	2	11	101-105	＊石川達三「蒼氓」、佐々木一夫「台湾行」、小林多喜二書簡集、立野信之「流れ」
私の最も影響された本[E]	1935	10	1	文学案内	1	4	120-120	＊十月飛躍号
荒地へ	1935	12	1	改造	17	12	66-88	〈創作欄〉
問題にして見たい事[E]	1935	12	1	文芸通信	3	12	7-7	
「新しさ」について〈作家の感想〉	1935	12	1	文芸通信	3	12	10-11	
今年度の作品と新人[E]	1935	12	1	文学評論	2	13	145-145	
客馬車	1935	12	1	労働雑誌	1	9	52-56	島崎蓊助(画)
農民文学の将来　農民観の是正が急務だ	1935	12	9	帝国大学新聞	一	603	9-9	
作者の言文―十二月創作評に応へて―	1935	12	9	時事新報	一			
1936年（昭和11年）								
共同耕作	1936	2	1	文学評論	3	2	2-16	＊小説
仕事のブレーキ	1936	3	1	文学評論	3	3	3-4	

クラブについて〈独立作家クラブへの希望〉	1936	3	1	文学評論	3	3	113-114	「独立作家クラブが出来て、色彩が豊富になれば、それぞれの色合ひを統一して行く基本色がなけらねばならぬ。この基本色の上に沢山の色どりを出さねばならぬと思ふ。」「我々の団体が、我々の団体に入りたがってゐる者、又は入さ[ママ]りうな人を拒む理由はない。……我々に好意はもってゐるが、クラブに入らないといふ作家とは、共同といふことがあると思ふ。」
中山氏のこと〈特輯　中山義秀論〉	1936	4	1	作品	7	4	67-68	
同人雑誌の経済と思想を批判する[E]	1936	4	1	文芸通信	4	4	18-18	
横光利一氏の一つの見方	1936	4	1	文学評論	3	4	64-69	
行動派の人達とも懇談したい〈独立作家クラブはどう活動すべきか〉[E]	1936	4	1	文学案内	2	4	69-70	「１・あなたはクラブに加入してゐますか、２・あなたのクラブへの希望と抱負は？　３・行動派を入れるかどうか……」
養鶏の秘伝〈作家副業往来〉	1936	5	1	文芸	4	5	139-141	＊随筆
欅の芽立	1936	5	1	文学界	3	5	2-38	⑥㉖　＊小説
刃物を持つ女〈特輯一新選短篇小説集一〉	1936	6	1	文芸通信	4	6	14-16	
経験から割出して一労働者作家の小説勉強２一	1936	6	1	文学案内	2	6	115-118	
東京案内（長篇）	1936	6	1	文学読本	1	1	2-20	〈創作欄〉
〈文学読本〉太子堂から	1936	6	1	文学読本	1	1	82-83	＊随筆
迫力弱し　丸岡明「家系」文春六月号所載	1936	6	8	帝国大学新聞	一	629	7-7	
東京案内（第二回）	1936	7	1	文学読本	1	2	10-18	〈創作欄〉
恋愛は分らない	1936	7	14	中外商業新報	一			
ゴリキイ断想	1936	8	1	文学評論	3	8	199-201	＊評論
虚無の女	1936	8	1	若草	12	4		＊小説　宝文館発行
偉大なる人民作家〈勝利して逝けるゴリキイへの寄せ書〉	1936	8	1	文学案内	2	8	21-21	
東京案内（第三回）	1936	8	1	文学読本	1	3	41-59	〈創作欄〉
〈文学読本〉八月の感想	1936	8	1	文学読本	1	3	80-81	＊随筆
文芸家協会のこと	1936	8	1	文学読本	1	3	107-108	＊随筆

「朱と緑」その他〈作家の感想〉	1936	9	1	文芸通信	4	9	16-17	
文芸会館建設を菊池寛氏に訊く	1936	9	1	文学案内	2	9	4-7	＊訪問記事
新文学の方向 座談会	1936	9	1	文学読本	1	4	2-17	出席者：田畑修一郎／石塚友二，大鹿卓，大岡昇平，川口浩，立野信之，寺崎浩，中里恒子，中山義秀，橋本英吉，丸岡明／本誌は橋本英吉と丸岡明の共編、鳳文書院発行
東京案内（第四回）	1936	9	1	文学読本	1	4	55-93	長篇
文芸批評を嗤ふ	1936	11	13	中外商業新報	一			
文芸批評を嗤ふ	1936	11	14	中外商業新報	一			
文芸批評を嗤ふ	1936	11	15	中外商業新報	一			
歳末平凡記〈一番困つた大晦日〉	1936	12	1	文芸通信	4	12	34-36	＊エッセイ
最も印象の深かつた今年の作品[E]	1936	12	1	文学案内	2	12	104-104	
1937年（昭和12年）								
季節の綴方	1937	1	1	文学界	4	1	46-57	⑥⑳　＊小説
私の一番言ひ度いこと[E]	1937	3	1	文芸通信	5	3	5-5	
炭坑（第四篇）――第一回――	1937	3	1	長篇小説	1	1	48-57	＊小説
炭坑（第四篇）――第二回――†	1937	4	1	長篇小説	1	2		
都会の華（一）	1937	4	1	文学界	4	4	273-319	＊小説
都会の華（二）	1937	5	1	文学界	4	5	262-287	＊小説
悪徳と情熱	1937	5	1	自由	1	5	166-184	⑤
都会の華（三）	1937	6	1	文学界	4	6	271-280	＊小説
都会の華（四）	1937	7	1	文学界	4	7	260-279	＊小説
〈新作の抱負〉「都会の華」の弁	1937	7	1	長篇小説	1	5	33-35	
都会の華（五）	1937	8	1	文学界	4	8	260-279	＊小説
都会の華（六）	1937	10	1	文学界	4	10	235-252	＊連載小説
農民文学は発展するか	1937	10	11	帝国大学新聞	一	689	7-7	
新興工業地帯を行く〈戦争の波紋を探る〉	1936	11	1	文芸春秋	15	14	322-329	
都会の華（七）	1937	11	1	文学界	4	11	83-98	＊連載小説
都会の華（終）	1937	12	1	文学界	4	12	90-103	＊小説
1938年（昭和13年）								

〈ブックレヴュー〉立野信之「恋愛綱領」	1938	2	1	文学界	5	2	219-220	
朝	1938	9	1	文学界	5	9	70-75	⑥　＊小説
指について	1938	10	1	新風土	1	5	2-8	⑤　小山書店発行　随筆雑誌　＊小説
農民作家と銃後の農村	1938	10	11	中外商業新報	ー			
農民作家と銃後の農村	1938	10	12	中外商業新報	ー			
農民作家と銃後の農村	1938	10	13	中外商業新報	ー			
衣食住その他	1938	12	1	文芸	6	12	2-26	⑤　＊創作
明確な読後の感銘　大鹿卓「金鉱」＝文芸春秋十二月	1938	12	12	帝国大学新聞	ー	745	7-7	
1939年（昭和14年）								
野草	1939	5	1	農政	1	5	284-293	⑩
陥没	1939	5	1	文学界	6	5	4-61	⑩　＊小説
国策と農民文学　文学は国策をつくるか？	1939	6	12	帝国大学新聞	ー	770	7-7	
四季（第一回）	1939	8	1	長篇文庫	1	7	91-116	
似た人	1939	9	1	作品	ー	113	16-17	＊随筆
四季（第二回）	1939	9	1	長篇文庫	1	8	107-135	
エノケン	1939	11	1	エスエス	4	11	144-145	
四季（第三回）	1939	11	1	長篇文庫	1	10	101-161	
四季（第四回）	1939	12	1	長篇文庫	1	11	91-138	
石碑	1939	12	5	[図書]	ー	ー	38-44	東京農業大学斯友會新聞部編『草炎：随想集』（東京農業大學斯友會新聞部）　限定版500部　創立五拾周年記念出版
†	[1939]	ー	ー	[内容見本]	ー	ー		『生活文学選集』内容見本（春陽堂）
1940年（昭和15年）								
†	1940	3	1	エスエス	5	3		
正常な批評を　農民文学の今日と明日	1940	4	22	帝国大学新聞	ー	808	7-7	
青空によせて	1940	5	1	文学界	7	5	4-29	⑩　＊小説
半少女	1940	7	1	政界往来	11	7	276-288	⑨　＊創作
篤農物語　尊徳と或る百姓	1940	8	1	新満洲	4	8	134-142	中一弥(絵)
富士	1940	9	1	文芸春秋	18	12	386-400	⑪

軟化病	1940	9	1	新潮	37	9	197-223	⑪　＊小説
衣裳	1940	10	1	月刊文章	6	10		⑪
時代と生産文学　一年生からやり直す……	1940	12	16	帝国大学新聞	一	837	6-6	
1941年（昭和16年）								
夢のあけくれ〈創作〉	1941	3	1	農政	3	3	174-183	
東京ところどころ	1941	3	10	[図書]	一	一	261-263	人文閣編輯部編『鶴隨筆集』（人文閣）
事実の尊重に就て〈農民文学懇話会〉	1941	4	25	日本学芸新聞	一	107	5-5	
楽手と楽器	1941	6	1	週刊朝日	39	24	39-	＊小説　鈴木信太郎(絵)
天平	1941	6	1	文芸春秋	19	6	302-317	⑪⑳
寵児の生涯	1941	6	1	文学界	8	6	148-179	⑪　＊小説
増産論について〈中央協力会議に提出された農村問題に就て一農民作家側の再検討〉	1941	7	10	日本学芸新聞	一	112	2-2	
追悼集によせて	1941	7	13	[図書]	一	一	187-189	『楠本寛遺稿追悼集』（楠本寛遺稿追悼集刊行委員会）
選炭婦	1941	9	1	オール読物	11	9		
余りに弱すぎる	1941	10	1	改造	23	19	12-28	⑭　＊小説
成長	1941	11	1	日本評論	16	11	270-286	⑭　＊小説
本年度の文学作品で好かれ悪かれ貴下の関心を惹いたものは何か？（アンケート）一一、著者と題名　二、その理由一	1941	11	30	現代文学	4	10	65-65	
1942年（昭和17年）								
歴史小説に就いての断想〈わが歴史文学観〉	1942	1	31	現代文学	5	2	15-18	特輯・わが歴史文学観　＊感想
誠実	1942	2	25	読売新聞	朝刊	23387	4-4	＊エッセイ
沙弥	1942	3	1	文学界	9	3	110-133	＊小説
海	1942	5	1	文芸	10	5	2-11	⑭　＊小説
良書推薦［E］	1942	6	1	開拓	6	6	138-138	＊東亜一般誌
「虚心」について	1942	6	28	現代文学	5	7	33-34	＊短評
宝児	1942	8	1	農政	4	8	126-134	⑭　＊小説
柿の木と毛虫	1942	12	1	文学界	9	12	104-127	＊小説　第16回芥川賞候補作
風・雲・太陽	1942	12	28	現代文学	6	1	10-13	＊小説　昭和十八年新年号

1943年（昭和18年）								
富士と水銀	1943	1	1	文芸春秋	21	1	172-204	⑭　「富士山頂」の原型
百花園―考証と空想―	1943	1	28	現代文学	6	2	41-42	＊随筆
生産文学の課題	1943	2	1	日本学芸新聞	一	147	3-3	
葉書回答 感銘の木と林（一、「木」に関する感銘の一例／二、記憶の美林）［E］	1943	2	1	全森聯会誌	1	2	41-41	
金原山林を歩いて	1943	4	1	全森聯会誌	1	4	32-35	
次郎長と海戦	1943	5	15	海運報国	3	5	62-64	
円山さん	1943	8	1	農政	5	8	88-95	＊小説
小鷹利の人たち―北飛騨の農村―	1943	8	1	文学界	10	8	58-63	
鉱山文学の在り方を語る[座談会]	1943	8	25	鉱華	1	3	6-16	出席者：一、作家側　橋本英吉、張赫宙、大林清、大鹿卓、神崎武雄、吉屋信子、筑紫聡、間宮茂輔、古川真治、阿部艶子、秋月桂太、沙羅双樹、諏訪三郎／二、鉱山統制会側　総務部長 山中克巳／三、鉱山監督局側　局長 水谷良一、常務課長 戸引達、鉱山官 杉本鉱一／四、鉱山部会側　朝田薫、（嘱託）並木行夫　大日本産業報国会東京地方鉱山部会発行
近ごろの考へごと	1943	9	1	昭徳	8	9	52-55	
小鳥峠	1943	10	1	文芸春秋	21	10	96-111	⑱　＊創作
三庄太夫	1943	11	1	文学界	10	11	108-127	㉒　＊小説
次郎長開墾	1943	11	1	文芸読物	13	11	36-48	『オール読物』改題　読切傑作小説集 田代光(画)　＊時代小説
本年度の新人について、従軍記・報道文について、本年最も感銘を受けた文学作品[E]	1943	12	1	文芸	11	12	62-62	
小説 富士と水銀	1943	12	15	測候時報	14	12	192-224	⑭　岡順次(絵)　中央気象台発行　「附記　本稿は文芸春秋第二十一巻第一号（昭和十八年一月号）に掲載されたものでありますが、著者橋本英吉氏の特別の御厚意に依り本誌に掲載する事を得ました。」
1944年（昭和19年）								

表彰式	1944	2	1	日本評論	19	2	93-103	＊小説
印刷工の気風	1944	3		印刷雑誌	27	3	28-29	雑誌名副題：Japan printer
炭坑の鼓動	1944	3	1	文芸春秋	22	3	54-59	＊エッセイ
川崎出動の感想	1944	5	20	文学報国	一	26	2-2	＊エッセイ　文学報国会で橋本は「国文学部会」の「部会長」を務めた（『文学報国』23号）
転職の態度〈文学決戦〉	1944	6	1	文芸	12	6	16-16	＊感想
受賞者の言葉㈠	1944	6	20	文学報国	一	28	1-1	＊有馬賞第五回：東方の種族
向日葵の種	1944	11	1	文芸春秋	22	11	56-64	
出陣・動の学徒に薦む[E]	1944	11	11	大学新聞	一	13	3-3	
1945年（昭和20年）								
小鷹利村雑感	1945	1	1	村と農政	7	1	44-46	『農政』改題誌
1946年（昭和21年）								
†	1946	1	1	オール読物	16	1		
煙管の独白	1946	2	1	文芸春秋	24	2	92-114	別冊１
小説　無の誘惑	1946	7	1	令女界	24	3	14-19	
富士山頂	1946	7	1	人間	1	7	13-41	㉑　曾宮一念(絵)　連載第一回
傍観者	1946	7	15	思索	-	2	99-111	㉒　夏季号　＊創作
富士山頂	1946	8	1	人間	1	8	20-43	㉑　曾宮一念(絵)　連載第二回
富士山頂	1946	9	1	人間	1	9	156-174	㉑　曾宮一念(絵)　連載第三回
昔風な女	1946	9	1	大地	一	2	115-127	〈創作欄〉
拳銃	1946	9	1	新人	26	6	69-84	＊小説
富士山頂	1946	10	1	人間	1	10	138-154	㉑　曾宮一念(絵)　連載完結
夕凪	1946	11	1	新女苑	10	10	76-84	㉒　藤川栄子(カット)　＊短篇小説
秋の宿	1946	12	1	文芸春秋	24	10	112-126	＊創作
1947年（昭和22年）								
遠方からの香り	1947	2	1	群像	2	2	56-74	㉒　＊小説
電波（上）	1947	3	1	婦人朝日	2	3	39-44	成瀬嘉与子(絵)
〈ー特輯ー石炭危機の実体〉小さな炭坑	1947	4	1	日本評論	22	3/4	33-40	＊随筆
電波（下）	1947	4	1	婦人朝日	2	4	40-45	成瀬嘉与子(絵)
虚空の祝祭	1947	6	1	朝日評論	2	6	52-63	＊小説

少年小説 森の歌	1947	8		少　　年	2	8/9	12-	光文社発行
稲株騒動	1947	8		地　　上	1	4		＊小説　家の光協会発行
稲株騒動	1947	9		地　　上	1	5		＊小説　家の光協会発行
断層†	1947		1	小説と読物	2			＊小説　桜菊書院発行
稲株騒動	1947	10		地　　上	1	6		＊小説　家の光協会発行
野中至　富士山頂の偉人	1947	10	15	[　図　書　]	ー	ー	139-150	こども朝日編『落穂ひろい：こどものための文学』（朝日新聞社）　小出卓二(カット・さしえ)
飢えについて	1947	12	26	東京新聞				＊エッセイ
†	1947			童話教室	2			桐書房発行
1948年（昭和23年）								
観念の図表	1948	3	1	文　　芸	5	3		＊小説　末尾に〈長篇「人間像」の一部〉とある。
高圧線	1948	3	1	新　　潮	45	3	22-30	㉒　＊小説
戦争中のこと	1948	3	15	改造文芸	ー	1	103-105	＊エッセイ
横光さんの眼	1948	4	1	文　学　界	2	4	8-11	横光利一追悼特輯号
オーストラリヤの家庭生活ー炭鉱夫の一日ー	1948	4		生活文化	9	4		旺文社発行
或る財宝	1948	5	1	新　小　説	3	5	48-60	㉒　〈創作〉　春陽堂発行
〝富士山頂〟余聞	1948	5	1	社　　会	3	5		＊エッセイ　鎌倉文庫発行
星の夜の広場にて	1948	5	1	現　代　人	1	5	37-51	㉒　＊小説
家と宗派について	1948	5	25	[　図　書　]	ー	ー		『横光利一全集月報２』（改造社）　＊エッセイ
死の周辺	1948	6	1	世界文化	3	6	49-64	㉒　＊創作
知った男	1948	6	1	モダン日本	19	6		＊小説　新太陽社発行
小説　純粋培養	1948	7		思　　索	ー	12	54-64	青磁社発行
思慕	1948	7	1	丹　　頂	1	4	48-56	＊小説
風・光・夜	1948	8	1	世　　界	ー	32	55-64	＊創作
くらやみの歌声	1948	8	1	風　　雪	2	8	2-13	＊小説
たもと草	1948	9	1	かまくら	ー	5	2-3	＊エッセイ
小説　温泉町の俠児	1948	10	1	苦　　楽	3	9	138-149	鈴木信太郎(画)
ホタル婆さん	1948	11	19	東京新聞				＊エッセイ
ホタル婆さん	1948	11	20	東京新聞				＊エッセイ
原始林	1948	12	1	思　　潮	ー	16	51-64	＊小説

雪とたたかう(一)(社会科)富士よりもたかし	1948	12		小学五年の学習	3	9	8-	
1949年（昭和24年）								
随筆･大きな手	1949	1		富民	21	1	28-29	雑誌名副題：農業の技術と経営
地獄極楽	1949	1	1	改造文芸	一	3	95-111	＊小説
村落新誌	1949	2	1	知識人	2	2	52-64	＊小説
かみ合せの馬車	1949	3		別冊芸術	一	創刊号		＊小説　小説特集　八雲書店発行（創刊号のみ）
憂愁手帖	1949	4	15	別冊風雪	一	2	160-181	＊小説
唇重く	1949	5	1	婦人文庫	4	5	96-103	木下孝則(絵)　＊短篇小説
或る会場にて〈風雪雑記〉	1949	5	1	風雪	3	5	77-78	＊エッセイ
横光利一賞詮衡後記	1949	5	5	改造文芸	一	4	52-52	＊俘虜記
〈雑記〉たもと草	1949	9	1	文学界	3	9	97-98	＊エッセイ
（写真口絵）†	1949	9	1	小説新潮	3	10	1-4	
ムチについての追憶	1949	12	1	人間	4	11	112-145	＊小説　11/12月合併号
1950年（昭和25年）								
生と死と	1950	4	1	改造文芸	2	4	99-111	＊小説
横光賞詮衡後記	1950	4	1	改造文芸	2	4	166-167	＊朝霧
天真爛漫	1950	5	1	風雪	4	5	48-61	＊小説
最後の挽歌	1950	10	1	小説公園	1	7	88-99	＊小説
1951年（昭和26年）								
わが文学の泉〈アンケート〉	1951	4	1	群像	6	4	122-122	＊エッセイ　「一、最も感動された日本文学作品一篇。／二、最も感動された外国文学作品一篇。／三、最も尊敬されている日本作家一人。／四、最も尊敬されている外国作家一人。」
紫色の愛情論	1951	4	1	小説公園	2	4	112-121	＊小説
豊漁	1951	6	1	日本評論	26	6	153-163	創作欄，小説
田園暮景	1951	7	2	馬酔木	30	7	26-29	＊エッセイ
伊豆の陽だまり	1951	7		旅	25	7	72-75	日本旅行文化協会発行
青空のように	1951	8	1	地上	5	8	64-67	＊エッセイ　家の光協会発行
虹と共に	1951	11	1	文芸	8	11		＊小説
川狂い山狂い―金原明善の生涯―	1951	11	1	地上	5	11		＊小説　家の光協会発行

南の海の幻想	1951	12	1	小説公園	2	13	154-164	＊小説
1952年（昭和27年）								
青年と人生	1952	1		人生手帖	1	1	8-	文理書院発行
娘の縁談	1952	3	1	明窓	2	12	107-113	＊小説
愛の完成	1952	7		人生手帖	1	7	5-	文理書院発行
麦笛〈文人俳句特輯 作品〉	1952	8		俳句	1	3	46-47	角川書店発行
我が家の小径	1952	10	1	小説公園	3	11	90-100	＊小説
知性の意匠	1952	11	1	文芸	9	11		＊小説
戦後は作品ベスト３[E]	1952	12	1	文芸	9	12		
1953年（昭和28年）								
あやつり人形	1953	2	1	新潮	50	2	160-170	＊小説
人生と小説	1953	3		人生手帖	2	3	8-	文理書院発行
果樹園の中	1953	7	1	群像	8	8	45-71	＊小説
幸福への途上	1953	8	1	明窓	4	5	203-212	＊小説
基地の悪い華―キャンプ・フジの報告―	1953	10	1	小説公園	4	10	170-184	＊小説
私の処女作と自信作	1953	10		出版ニュース	―	249	2-3	日本出版配給発行　雑誌名副題：Japanese publications news and reviews　10月中旬号
1954年（昭和29年）								
鸚鵡	1954	1	1	新潮	51	1	225-235	＊小説
1955年（昭和30年）								
黒い掌	1955	1	1	群像	10	1	166-180	＊小説
職業とヒューマニズム	1955	3		人生手帖	4	3	9-	文理書院発行
ぼたん雪	1955	4	1	新潮	52	4	196-206	＊小説
私の文学開眼期	1955	4	1	新潮	52	4		＊エッセイ
カブト・ビール	1955	5	25	文芸	12	8		＊エッセイ
女の園	1955	7	1	小説公園	6	7	226-237	
小説 歌を覚える話	1955	9		人生手帖	4	9	28-	文理書院発行
大仁〈一人一湯〉	1955	10		旅	29	10	54-54	日本旅行文化協会発行
1956年（昭和31年）								
荒野の白い鳥	1956	5	1	小説公園	7	5	152-164	

徳永直との三十年	1956	8	1	新潮	53	8	23-25	＊エッセイ
量より質へ	1956	10	1	農民文学	ー	7	8-9	＊エッセイ　農民文学（第2次）
映画と小説	1956	12		人生手帖	5	12	60-	文理書院発行
1957年（昭和32年）								
ただ一人の労働者作家徳永直	1957	7	5	[図書]	ー	ー	407-410	『現代日本文学全集77前田河広一郎・藤森成吉・徳永直・村山知義集』（筑摩書房）　のち『現代日本文学大系59前田河広一郎・徳永直・伊藤永之介・壺井栄集』（筑摩書房、1973年5月21日、P. 412～415）に再録。
富士	1957	8	5	日本読書新聞	ー	911	7-7	＊エッセイ
息子たちはこう考える	1957	10		人生手帖	6	10	66-	文理書院発行
農村文化の向上と青年の役割	1957	12		人生手帖	6	12	62-	文理書院発行
1958年（昭和33年）								
結婚式について	1958	1		人生手帖	7	1	55-	文理書院発行　のち、文理書院人生手帖編集部編『人生の道標：若い友への手紙』（文理書院、1959年2月10日、P. 198～204）に再録。
伊豆の春	1958	2	1	温泉	26	2	16-17	日本温泉協会発行
≪創作≫にせさつ	1958	2		人生手帖	7	2	98-	文理書院発行
残念です〈徳永直の死を悼む〉	1958	4	1	新日本文学	13	4	94-95	
「太陽のない街」のころ　〝小説家になるつもりは毛頭なく書く〟	1958	4	1	新読書	ー	247	18-20	特輯・亡き徳永直を悼んで
ボスの善意〈心の宝石〉	1958	9	1	婦人生活	12	9	88-89	＊エッセイ
創作 がんこ親父	1958	11		人生手帖	7	11	32-	文理書院発行
1959年（昭和34年）								
死体探し	1959	5	1	文芸春秋	37	5	54-56	
文学講座 小説の学校	1959	7		人生手帖	8	7	72-	文理書院発行
文学講座 小説の学校	1959	8		人生手帖	8	8	74-	文理書院発行
文学講座 小説の学校	1959	9		人生手帖	8	9	76-	文理書院発行
文学講座 小説の学校	1959	10		人生手帖	8	10	72-	文理書院発行
文学講座 小説の学校	1959	11		人生手帖	8	11	80-	文理書院発行

文学講座 小説の学校	1959	12		人生手帖	8	12	74-	文理書院発行
1960年（昭和35年）								
随想 妻よやすらかに眠れ	1960	5		人生手帖	9	5	80-	
心の宝石	1960	6	1	婦人生活	14	6	106-107	
由良の瀬戸	1960	7		別冊小説新潮	14	10	123-135	
1962年（昭和37年）								
初旅の印象	1962	6	1	温泉	30	5	31-31	日本温泉協会発行
1964年（昭和39年）								
自然のままの物を食べよう	1964	7		人生手帖	13	7	85-	文理書院発行
1965年（昭和40年）								
私の広告	1965	3		文芸朝日	4	3	112-113	
終戦日記	1965	10		太白	一	2		太白発行所
1966年（昭和41年）								
伊豆と富士山	1966	2	1	政界往来	32	2	9-11	
1967年（昭和42年）								
共稼ぎと税金	1967	4	1	政界往来	33	4	91-93	
肥えること痩せること	1967	12	1	政界往来	33	12	142-144	
1968年（昭和43年）								
朝のうたげ	1968	4	1	新潮	65	4	126-148	＊小説
「ある線」の話〈回想・ナップと私〉	1968	5	1	文化評論	一	80	151-153	特集＝ナップ結成四十周年・小林多喜二没後三十五周年
七十からの余白〈作家の眼〉	1968	10	1	新潮	65	10	194-195	
旅の今昔	1968	10	1	政界往来	34	10	10-13	
忘れ得ぬ人びと	1968	12	1	新潮	65	12	175-185	
不可解な学生運動	1968	12	17	東京新聞	夕刊			
1969年（昭和44年）								
†	1969	4		[図書]	一	一		石塚友二編『文人俳句歳時記』（生活文化社）
冬から春へ	1969	5	1	新潮	66	5	132-149	＊小説
街道住い	1969	6	1	政界往来	35	6	180-183	

石炭列車　少年時代の汽車の想い出	1969	7	6	交通新聞	―	7830	4-4	
1970年（昭和45年）								
小説 伝通院裏	1970	8	1	新潮	67	6	158-164	
1971年（昭和46年）								
三脚の鼎㉔	1971	1	1	文化評論	―	113	152-181	㉔
三脚の鼎(第二回)㉔	1971	2	1	文化評論	―	114	160-182	㉔
創作 三脚の鼎(第三回)㉔	1971	3	1	文化評論	―	115	181-196	㉔
創作 三脚の鼎(第四回)㉔	1971	4	1	文化評論	―	116	176-198	㉔
創作 三脚の鼎(第五回)㉔	1971	5	1	文化評論	―	117	174-198	㉔
創作 三脚の鼎(第六回)㉔	1971	6	1	文化評論	―	118	176-196	㉔
書きはじめの頃―失業中を妻に隠れ―	1971	6	15	文学新聞	―	26		日本民主主義文学同盟発行　＊エッセイ
創作 三脚の鼎(第七回)㉔	1971	7	1	文化評論	―	119	168-194	㉔
創作 三脚の鼎(最終回)㉔	1971	8	1	文化評論	―	120	177-195	㉔
新感覚派と私	1971	8		早稲田文学	3	8	119-120	早稲田文学（第7次）
随筆 目の痛い五十年	1971	11	1	政界往来	37	11	10-15	
私の歴史小説	1971	11	1	文化評論	―	123	106-	
1972年（昭和47年）								
昨年嬉しかったこと	1972	1	1	しずおか民報	―			
自伝的なもの書きたい†	1972	1	30	？	―		日曜版第9面	「本と人と」インタビュー形式，新聞切り抜き(紙名不詳、『赤旗』か？)
立野信之の思い出	1972	2	1	民主文学	―	75	168-170	
鎖国と開国	1972	5	14	しずおか民報	―			
病床の詩人の思い出	1972	5		[図書]	―	―		『石田波郷全集月報』第10号（角川書店）
川端康成の印象	1972	6	5	平和新聞	―			
藤岡文六氏を憶う〈故郷・異郷・望郷〉	1972	7	2	西日本文化	―	83	25-25	
備忘録から	1972			踏切	―	21		沼津支部会報
1973年（昭和48年）								
死者展覧	1973	1	1	民主文学	―	86	80-106	＊エッセイ
臨終前後〈回想・徳永直：没後十五周年に寄せて〉	1973	3	1	文化評論	―	140	83-84	

1974年（昭和49年）								
腰の曲るのが嫌だ―秋に二度目の眼底出血―	1974	5	15	文　学　新　聞	―	60		日本民主主義文学同盟発行　＊エッセイ
1975年（昭和50年）								
随筆 禁煙	1975	3	1	民　主　文　学	―	112	86-87	
昭和の青春―初期編―	1975	3	15	文　学　新　聞	―	70		日本民主主義文学同盟発行　＊エッセイ
江口渙と玄米〈特集：江口渙追悼：回想の江口渙〉	1975	4	1	民　主　文　学	―	113	35-37	
若き坑夫の像(第一回)	1975	8	1	文　化　評　論	―	170	180-	
若き坑夫の像(第二回)	1975	9	1	文　化　評　論	―	171	180-	
若き坑夫の像(第三回)	1975	10	1	文　化　評　論	―	172	176-	
若き坑夫の像(第四回)	1975	11	1	文　化　評　論	―	174	180-	
若き坑夫の像(第五回)	1975	12	1	文　化　評　論	―	175	183-	
1976年（昭和51年）								
若き坑夫の像(第六回)	1976	1	1	文　化　評　論	―	176	173-	
若き坑夫の像(第七回)	1976	2	1	文　化　評　論	―	177	182-	
若き坑夫の像(第八回)	1976	3	1	文　化　評　論	―	178	179-	
若き坑夫の像(第九回)	1976	4	1	文　化　評　論	―	179	184-	
若き坑夫の像(完結)プロレタリア文学いらいおとろえぬ筆力、橋本文学の代表作	1976	5	1	文　化　評　論	―	181	250-	
唯一の労働者作家	1980	5	26	[　図　書　]	―	―		伊藤整ほか編『日本現代文学全集73葉山嘉樹・徳永直・黒島傳治集　月報46』増補改訂版（講談社）＊徳永直
†	1980	7		[　図　書　]	―	―		清水基吉・村山吉郷編『石田波郷：人とその作品』（永田書房）